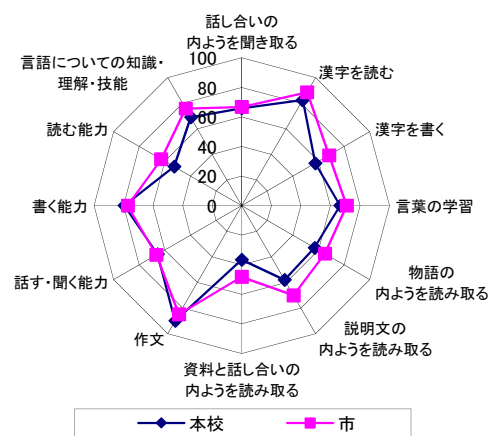


宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内ようを聞き取る	65.7	66.6
	漢字を読む	82.4	88.4
	漢字を書く	57.4	68.2
	言葉の学習	66.7	71.0
	物語の内ようを読み取る	56.9	64.9
	説明文の内ようを読み取る	58.0	70.1
	資料と話し合いの内ようを読み取る	36.6	48.3
	作文	90.0	84.9
観点別	話す・聞く能力	65.7	66.6
	書く能力	79.4	77.1
	読む能力	52.8	63.0
	言語についての知識・理解・技能	69.0	75.8



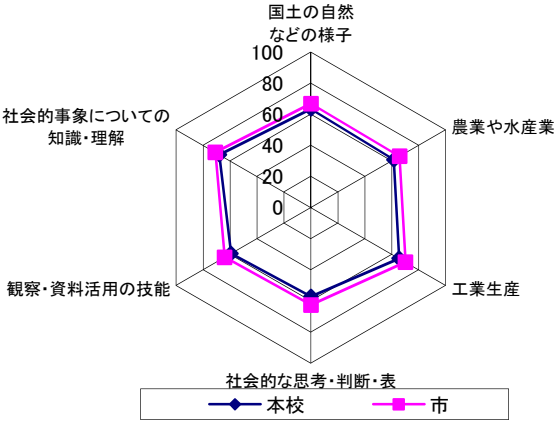
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内ようを聞き取る	平均正答率は市の平均をやや下回っていた。出題内容は討論会の話し合いの聞き取りで、話し方の工夫を考えながら話の内容を聞くことは、市の平均を上回っていた。しかし、司会者の役割を理解して、適切な言葉遣いで話すことが不十分であった。	・「話す・聞く」単元の学習では、討論会などの話し合いの進め方や話し手の工夫などをしっかり踏まえながら、話したり聞いたりするように指導していきたい。 ・朝のスピーチや日常生活の様々な機会に自分の意見を整理して相手に正しく伝えられるように取り組ませたい。
漢字	平均正答率は、漢字の読み書きともに市の平均を下回っていた。5学年の読みは良くできていたが、4学年の読み書きについては平均を下回っていた。	・漢字ドリル等を活用して、当該学年の漢字の読み書きの学習を継続しミニテストで習熟度を確かめたり、前学年までに習った漢字を復習したりして既習漢字の定着を図るようにする。 ・日頃から既習漢字を使って文や文章を書くように指導する。
言葉の学習	平均正答率は市の平均を下回っていた。漢字の成り立ちについての理解は市の平均より高かったが、ことわざや句読点の打ち方については正答率が低かった。	・文章を書いたり読んだりするときは、進んで辞書を活用して意味や読み方を調べ、適切な言葉遣いができるように指導する。 ・伝えたい内容を確認しながら意識的に句読点を使うようにさせ、正しい打ち方を指導する。
物語の内ようを読み取る	平均正答率は市の平均を下回っていた。登場人物の気持ちを読み取ることは大変良くできていた。しかし、場面の情景や場面の描写をとらえて表現の特徴をつかむことがあまりできていなかった。	・文に即して場面ごとに登場人物の様子や心情を想像しながら読んだり、心情の変化に視点をおいて読み取ったりする指導を継続していく。 ・読書を通して考えを広めたり深めたりできるように、朝の読書の時間を活用し本に親しむ態度を育てていく。
説明文の内ようを読み取る	平均正答率は市の平均を下回っていた。文章の構成をとらえながら内容を的確にとらえることが十分でなかった。	・段落ごとのまとめを捉えながら文章を読んだり、段落と段落の関係について考えたりしながら文章全体の構成を読み進めていくようにする。 ・段落の中で、より重要な文を捉えたり、大切な語句を押さえたりして要旨や要点のまとめ方を指導する。
資料と話し合いの内ようを読み取る	平均正答率は市の平均を下回っていた。与えられた資料を読み取り、求められている情報を的確に取り出すことや話し合いの内容を正確に読み取って考えることが不十分だった。	・ポスターやリーフレットなどに掲示されている資料の読み取り方を具体的に指導し、書かれた文章と対応させながら読むよう指導する。 ・資料をもとにした話し合いでは、その中心を確認しながら文章を読んでいくよう指導する。
作文	平均正答率は、市の平均を上回っていた。特に、事実と自分の感想を区別して書くことが大変よくできていた。指定された長さで文章を書くこともできた。	・作文の基本的な書き方について随時指導し、自分で推敲する習慣をつけさせる。 ・今後も校外活動や学校行事などの機会を捉え、書くこととする意欲が高まるような場面の設定を工夫して指導に当たる。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	国土の自然などの様子	63.3	66.7
	農業や水産業	61.5	65.8
	工業生産	65.4	70.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	57.2	62.7
	観察・資料活用・技能	59.3	64.1
	社会的事象についての知識・理解	67.9	70.9



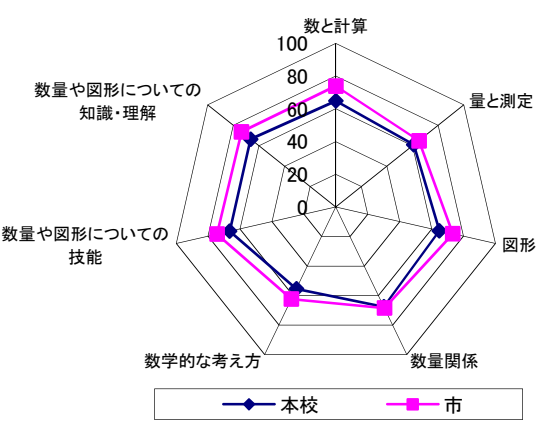
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	・平均正答率は市の平均をやや下回ったが、日本の国土や北海道の家屋の特徴などは市の平均を上回った。しかし、世界の主な大陸の名称と位置、日本の主な川や気候の特色などについては不十分であった。	・国土について、地図や地球儀を活用しながら主な山地や平地などの位置を捉えて自然や地形の特徴をまとめるようにする。 ・世界の主な大陸について、世界地図を用いてその位置と名称を確かめ、その様子を調べて日本と世界の関わりに興味・関心を持てるようにする。
農業や水産業	・平均正答率は市の平均をやや下回ったが、漁業別水産業の特色を捉えたり、米作りの作業の順番について並び替えたりすることは、市の平均を上回った。しかし、日本の米作りや栽培漁業の内容、肉類の自給率に関する疑問点について、資料を基にし考察することが不十分であった。	・グラフや写真などさまざまな形態の資料からの読み取りを今後も継続して指導していく。 ・資料から読み取ったことをもとに、自分の言葉で記述する学習を取り入れていく。
工業生産	・平均正答率は市の平均を下回ったが、人にやさしい車について、写真から分かる共通点を読み取って判断することや工業製品の種類を理解することはよくできていた。しかし、工業地帯の分布の理解や日本の貿易に関する資料の読み取りが不十分であった。	・日本の工業の特色について、補助教材の資料も活用しながら指導していく。 ・日本の貿易について、世界とのつながりを意識させ、さまざまな形態の資料から読み取らせていく。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	64.8	73.9
	量と測定	60.9	65.0
	図形	64.8	73.2
	数量関係	67.6	68.5
観点別	数学的な考え方	55.5	62.4
	数量や図形についての技能	66.5	74.4
	数量や図形についての知識・理解	66.5	73.6



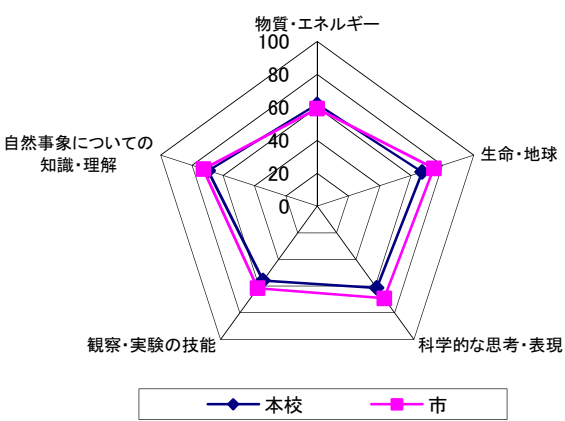
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を下回っていた。小数や分数の計算は正答率が高いものもあるが、帯分数を仮分数に直したり、余りが小数になる除法では正答率が低いものがあった。文章問題を解くための小数の除法の立式が不十分であった。	・小数の計算については、小数点の位置を確認しながら計算していくように指導する。 ・帯分数から仮分数への変換が必要な分数の加法・減法の練習問題を指導していく。 ・文章問題を、図や数直線を使って表すことができるよう指導していく。
量と測定	立方体や直方体の体積を求める問題では、市の平均正答率を上回っていた。面積と人数の割合を求め、混み具合を考察することの定着は十分とは言えない。	・図形の体積を求める公式の意味をしっかりと復習し、練習問題を通して定着させる。 ・混み具合を比べる場合は、1㎡あたりの人数の違いや一人あたりの面積の違いで求められることを理解させる。
図形	合同な図形の性質については、市の平均正答率を上回っていた。図形の角の求め方についてはややつまづきがあった。	・合同な図形の条件をおさえながら、図形のかき方や対応する頂点の位置関係を指導する。 ・三角形や四角形の内角の和やそれを利用した練習問題を指導していく。
数量関係	伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことは市平均を上回っていた。計算のきまりを小数に拡張することなどの定着はやや不十分であった。	・比例の意味や性質をしっかりと復習させる。伴って変わる2つの数量の関係の立式については、個数と代金の関係や正三角形における1辺の長さとの周りの長さの関係などよりわかりやすい内容で指導する。

宇都宮市立西が岡小学校 第5学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	61.8	59.3
	生命・地球	67.0	74.4
観点別	科学的な思考・表現	61.4	69.2
	観察・実験の技能	55.9	61.6
	自然事象についての知識・理解	69.6	72.7



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・市平均を上回っていた。「もののあたため方」は、正答率9割の項目が出るなど、十分身に付いている。 ・「冷たい水にコップに水滴が付く理由」を指摘する問題、低い正答率だった。	・5年のみでなく、4年時の学習も復習するよう声かけをする。 ・生活経験と理科学習がつながっていない事例が見られたので、学習の中で日常の体験を例に挙げながら、理科学習を進める。
生命・地球	・「メダカの発生順序」は、正答率100%の項目が出るなど、十分身に付いている。 ・多くの項目はほぼ同じであるが、「流れる水のはたらき」「雲と天気の変化」は、市の平均正答率よりやや下回っている。	・観察を熱心に行ったメダカについては知識が身に付いており、図やイラストから正しく判断することができている。今後も身近なところで観察を続けていけるような環境をつくっていききたい。 ・観察・実験の少ない設問は、正答率が低い傾向であった。本や資料を利用して学習して分かったことを自分の言葉でまとめる機会を設ける。